様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：２３８０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００２９１

研究課題名（和文）中世末期から近世前期における諏訪信仰の総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study of the Suwa faith from the late medieval period to the early modern period

研究代表者
二本松　康宏（Nihonmatsu, Yasuhiro）

静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授

研究者番号：９０５１５９２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究が目指したのは、中世末期以降の大祝家や神職家らの内訌を経て再創出された新たな諏訪信仰の様相と実相、そしてその伝播の解明である。
2020年度からの疫病禍の影響によって当初に計画していた新規の調査を進めることができなかったが、採択期間を1年間、延長することで、南九州各地に伝播した島津氏系の諏訪信仰の調査を再開した。また、これまでの研究成果の総括の一つとして代表者の単著『諏訪信仰の変奏―中先代の乱から甲賀三郎神話へ―』を公刊した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近世における諏訪信仰が、実は、中世末期以降の大祝家や神職家らの内訌を経て再創出されたものであったという前提そのものが、本研究によって示された新しい視点である。
ごく近年、中世の諏訪信仰に関わる研究は多発的な隆盛を見せ始めている。本研究もそうした研究の一翼を担ったものである。
とくに南九州各地に伝播した島津氏系の諏訪信仰の調査は、上井覚兼とその子孫（諏訪氏を称する）に注目することで、これまでにない視点からその伝播の解明に挑んだ。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to elucidate the nature and reality of the newly recreated Suwa faith that emerged after the internal conflicts of the major Suwa families and priests since the late Middle Ages, as well as the dissemination of that faith.

Due to the impact of the epidemic from the academic year 2020 onwards, it was not possible to proceed with the new investigations initially planned. However, by extending the adoption period by one year, investigations into the Suwa faith spread by the Shimazu clan in various parts of southern Kyushu have been resumed. Additionally, as one of the summaries of the previous research results, the representative author published a single-authored book titled "Variations of Suwa Faith - From the Rebellion of Chusendai to the Legend of Koga Saburo."

研究分野：伝承文学

キーワード：諏訪信仰　諏訪信仰の再創生　大祝家　島津氏　諏訪縁起　甲賀三郎

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

(1)　本研究の発端は 2013 年 9 月に開催された公開シンポジウム「諏訪信仰と伝承文学」（伝承文学研究会主催、長野県短期大学）での討論に遡る。同シンポジウムには、本研究の代表者となる二本松康宏がパネラー兼司会として、研究分担者となる二本松泰子もパネラーとして参加した。シンポジウムの目的は、戦前からの郷土史的な範疇に留まる諏訪研究の現状（遅れ）を訴え、従来の研究手法を刷新する学術的かつ学際的なアプローチによる研究の必要性を提案するものであった。同シンポジウムでの成果をもとに二本松康宏（伝承文学）を代表として、中澤克昭（日本史学）、永松敦（民俗学）、二本松泰子（日本文学・放鷹文化）らは「中世前期諏訪信仰研究会」を立ち上げ、2014 度～2016 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「中世前期における諏訪信仰の総合的研究」（研究課題番号：26370207）の助成を受けて、中世前期すなわち鎌倉時代における諏訪信仰の実相の解明を目指した。まずは中世前期に成立したとされる諏訪信仰の縁起群について、それぞれの専門分野から各論的な考証を提示し、それを議論・検討してゆくというかたちで研究を進め、その成果の一部は『諏訪信仰の中世―神話・伝承・歴史』（二本松康宏・福田晃・徳田和夫編、三弥井書店、2015 年 9 月）に収めて公開した。

(2)　中世前期の諏訪信仰に関する研究を進めるなかで、南北朝時代のいわゆる中先代の乱を契機として諏訪上社を中心とする信仰の体系や形態、思想、そして信仰そのものまでが大きく変動したことが判明してきた。鎌倉時代には「神と同体」として崇敬された大祝の権威が失墜することにより、南北朝時代以降の諏訪信仰は多様闊達な展開を示す。そうした諸相を考証してゆくために本研究会のメンバーが注目したのは以下のテーマである。

① 諏訪市博物館に所蔵される大祝家文書と同館に寄託されている権祝矢島家文書の解析
② 『諏訪大明神画詞』の著者である諏訪円忠と京都諏訪氏の活動
③ 中先代の乱と観応の擾乱を契機とする、いわゆる「諏訪縁起」の在地的再生

あらたな学術的かつ学際的な研究を推し進めるために「中世前期諏訪信仰研究会」は「中世後期諏訪信仰研究会」に移行し、2017 度～2019 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「中世後期における諏訪信仰の総合的研究」（研究課題番号：17K02420）の助成を受けて、上記の①～③の解明を目指した。中世神話の奔流から諏訪信仰を鳥瞰し、新たな「諏訪学」を問うことを掲げて、その成果の一部は『諏訪信仰の歴史と伝承』（二本松康宏編、三弥井書店、2019 年 3 月）に収めて公開した。また、同書の公刊をもとにして、2019 年 9 月には公開シンポジウム「諏訪信仰の伝承世界」（伝承文学研究会主催、長野県立大学）を開催している。

(3)　上記の（1）（2）の課題への取り組みの中で見出されたのは、中世後期の諏訪信仰の拡散的伝播以降の動向と推移への関心である。戦国時代における大祝職の継承と諏訪上社の支配権をめぐる諏訪氏および神職家らの内訌を経て、各家がそれぞれ独自の諏訪信仰を再創出し、上社を軸とする多様な信仰体系が地域を超えて再構築された。その伝播と再創生は信州・諏訪地域のみならず、京都から南九州にまで及んでいる。そうして再創生された信仰の伝播を解明するために「中世前期諏訪信仰研究会」は「中世諏訪信仰研究会」に移行し、本課題「中世末期から近世前期における諏訪信仰の総合的研究」に挑むこととなった。

２．研究の目的

本研究が課題とするのは、中世後期の諏訪信仰の拡散的伝播以降の動向と推移である。戦国時代における大祝職の継承と諏訪上社の支配権をめぐる諏訪氏および神職家らの内訌を経て、各家がそれぞれ独自の諏訪信仰を再創出し、上社を軸とする多様な信仰体系が地域を超えて再構築された実態を解明する。本研究が問い求めたいのは中世末期から近世前期における諏訪信仰の様相である。中世後期における上社大祝の権威の失墜の「その後」において新たに希求された諏訪信仰の諸相であり、そうして再創生された信仰の伝播の解明である。本研究が追い求める中世末期から近世前期とは、中世以来の諏訪信仰の終焉期である。本研究では中世末期から近世前期において多様に展開した諏訪信仰の諸相に注目し、それらの信仰体系が再構築されてゆく背景と経緯の解明を目指す。

３．研究の方法

(1)　中世末期から近世前期にかけて大祝家は同族内での争いを繰り返した。内訌のたびに同氏の嫡流はめまぐるしく変わり、それに伴って同家の信仰伝承は変容してゆく。諏訪信仰の中心的な存在である大祝家と中世末期から近世にわたって大祝を影響下に置いた藩主家とに伝えられたそれぞれの家伝書について解析を進める計画であった。

(2)　本研究では諏訪市博物館に移管されたまま、その多くが未検証・未公開となっている「大祝家文書」について悉皆的な精査・検証を進め、当該期における諏訪信仰の「異伝」「異説」の

視点と生成を分析する計画だった。（担当二本松康宏・二本松泰子）

（3） 戦国時代には大祝職の簒奪を企てた禰宜太夫（のちに権祝）の矢島家も、当該期において積極的に独自の諏訪伝承を創出した。諏訪市博物館に寄託される「矢島家文書」には当家に伝来した新出の『諏訪大明神画詞』の伝本や同書の抜書を掲載した冊子が含まれる他、『諏訪大明神画詞』に見える縁起を同氏の家伝に採り込み新たな物語を創り上げたテキストや、それを引用した同氏の系図が多数確認できる。本研究では諏訪市博物館に寄託される「矢島家文書」について、その読解と解明に挑む計画だった。（担当二本松泰子・中澤克昭）

（4） 中世後期以降、大祝の権威を離れて地方に拡散した諏訪信仰は「大祝＝諏訪大明神の現身」という鎌倉時代以来の信仰を放棄し、非大祝系の神話の創出と伝播を求めてきた。鎌倉時代には信濃国太田荘に地頭職を持ち諏訪社の祭礼に奉祀した島津氏は、南九州（薩摩、大隅、日向）の領国においても「諏訪縁起」（兼家系甲賀三郎物語）の伝播を積極的に支持し、戦国時代から江戸時代前期にかけてその領国には甲賀三郎を祖神とする諏訪信仰が流布した。我々のこれまでの調査においても島津氏の影響下にあった南九州地方の諏訪神社の多くに「諏訪縁起」を称する絵巻物の伝来が確認されているが、氏子組織の高齢化等によってその管理・維持は危惧されるべき状況下にある。本研究において、島津領の諏訪神社に伝来した兼家系「諏訪縁起」の再精査と、当該伝承を媒体とする諏訪信仰の地方伝播の環境について明らかにする計画だった。（担当二本松康宏・永松敦）

４． 研究成果

本研究が目指したのは、中世末期以降の大祝家や神職家らの内訌を経て再々創出された新たな諏訪信仰の様相と実相、そしてその伝播の解明である。そのために、諏訪市博物館等に所管される「大祝家文書」や「矢島家文書」の調査（中澤克昭、二本松泰子）、および南九州各地に伝来した島津氏ゆかりの「諏訪縁起（絵巻）」の調査（二本松康宏、永松敦）に取り組む予定であった。

（1） 本課題採択期間の 1 年目となる 2020 年度は諏訪市博物館での文書調査と南九州地方（鹿児島県、宮崎県）における「諏訪縁起」の調査を計画していた。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大とそれにともなう行動制限や施設の閉鎖によって、新規の調査活動がまったくできない状況となった。さらには本務校での対応もにわかに多忙化し、研究ミーティングを設ける機会もなかった。そうしたなかで、この活動停滞期を、申請以前から蒐集していた資料を読解しなおす機会として捉え、諏訪市博物館寄託の権祝矢島家文書の中から『信州諏方大明神縁起』『諏方大明神畫詞』等の読解と公刊を果たすことができた。また、同博物館所蔵の大祝家文書の系図を精査し、同家の氏祖伝承の多様性に言及できたことも成果の一つと言えるだろう。

（2） 採択期間の 2 年目となる 2021 年度も新型コロナウイルス禍の影響による行動制限や施設の閉鎖などが続き、計画していた調査が実施できなかった。そこで、次年度以降の環境改善に備えてオンラインでの研究ミーティングによる準備的研鑽を開始した。その概要は以下のとおりである。

① 2021 年 7 月 31 日　間枝遼太郎「諏訪明神の中世と近世―法性大明神とタケミナカタ―」
② 2021 年 9 月 25 日　石井裕一朗「中世絵巻における『諏訪大明神絵詞』の位置」、中澤克昭「中近世移行期における所謂「呪術からの脱却」をめぐって」
③ 2021 年 11 月 21 日　二本松泰子「諏訪上社をめぐる縁起伝承の展開―矢島家文書における氏族伝承および物忌令の写しを端緒として―」鈴木由美「中先代の乱と信濃武士」
④ 2022 年 1 月 30 日　鈴木良幸「シシウチ儀礼と猟師の狩猟―諏訪大社上社御射山祭を視野に―」永松敦「諏訪の狩猟信仰研究の課題」

それぞれの研究発表は「話題提供→ブレスト」という形態で行われ、本研究の課題に関する知見だけでなく、すでに「次の課題」を見据えるものとなった。

（3） 採択期間の 3 年目となる 2022 年度は、新型コロナウイルス禍の影響による行動制限や施設の閉鎖などは緩和されたものの、それまでの 2 年間の停滞によって計画の見直しが必要となった。2023 年度への 1 年延長を見据え、あらためて環境改善に備えたオンラインでの研究ミーティングを重ねた。その概要は以下のとおりである。

① 2022 年 7 月 31 日　宮嶋隆輔「諏訪上社の御左口神―古代中世の守宮神信仰から読み解く―」山本ひろ子「宮嶋報告をめぐる二、三の問題」
② 2022 年 9 月 25 日　中澤克昭「室町・戦国期の鹿食と諏訪信仰」原田信男「諏訪における供犠をめぐる歴史的枠組みについて」
③ 2022 年 12 月 3 日　間枝遼太郎「中世洩矢伝承の基礎的整理と新出資料」二本松泰子「諏訪信仰と鷹書―守矢家文書の言説を手掛かりにして―」
④ 2023 年 3 月 26 日　永松敦「諏訪信仰と茅―なぜ、諏訪ではススキが多用されるのか?!―」

（4） 採択期間の延長により 4 年目となった 2023 年度は、限られた期間の中での成果を目指すため、本課題における最も重要なテーマの一つである南九州各地に伝来した島津氏に所縁の諏訪信仰の調査にリソースを振り分けることになった。島津氏に内包される諏訪信仰あるいは在地における「諏訪縁起」と呼ばれる絵巻物群の調査にあたった。調査の過程において、島津氏の重臣として知られる上井覚兼とその子孫たちが「諏訪氏の同族」として諏訪姓を自称してきた背景が明らかとなった。誤解がないように明記するならば、上井氏がもともと南九州地方、とくに大隅における諏訪信仰の管理者だったというのではない。むしろ諏訪信仰の伝播に同調し、その権威と伝播を利用するかたち上井氏が自らの系譜に取り込んでいったものと考えられるのである。
なお、2023 年度においても本研究課題を進めるため「中世諏訪信仰研究会」による研究ミーティングを実施した。その概要は以下のとおりである。
① 2023 年 7 月 22 日　二本松泰子「中近世の鷹書に見える諏訪の偈について」
② 2023 年 10 月 1 日　井上智勝「近世の諏訪社・諏訪信仰」

（5） 2014～2016 年度「中世前期における諏訪信仰の総合的研究」、2017～2019 年度「中世後期における諏訪信仰の総合的研究」、2020 年～2023 年度「中世末期から近世前期における諏訪信仰の総合的研究」と 10 年間にわたった課題の最終成果として、代表者による著書『諏訪信仰の変奏―中先代の乱から甲賀三郎神話へ―』（三弥井書店、2024 年 1 月）を刊行した。その目次は以下のとおりである。

序　章　中先代の乱と諏訪信仰
第一章　阪波大王から甲賀三郎へ
第二章　大祝に反旗を翻す―『伊那古大松原大明神縁起』―
第三章　諏方系「諏訪縁起」の風景（一）―蓼科山と雨境峠から―
第四章　諏方系「諏訪縁起」の風景（二）―新海道から上州へ―
第五章　兼家系「諏訪の本地」の風景（一）―なぎの松原から―
第六章　兼家系「諏訪の本地」の風景（二）―甲賀三郎の子どもたち―
第七章　諏訪信仰とみちのくの鷹―真名本『曽我物語』における畠山重忠の「鷹語り」から―
結　章　諏訪縁起の変奏

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　12件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 二本松康宏	４．巻 なし
２．論文標題 諏訪信仰の変遷―中先代の乱から甲賀三郎神話へ―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 令和4年度秋季企画展「諏訪と武田氏」（図録）	６．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中澤克昭	４．巻 1027
２．論文標題 室町・戦国期の鹿食と武家	５．発行年 2022年
３．雑誌名 歴史学研究	６．最初と最後の頁 26-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 二本松泰子	４．巻 71
２．論文標題 近世における諏訪上社をめぐる文化伝承―権祝矢島家の家伝を中心に―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 伝承文学研究	６．最初と最後の頁 105-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 二本松泰子	４．巻 14
２．論文標題 国立公文書館内閣文庫所蔵　『諏訪流鷹書』(函号一五四-三六〇)の紹介・翻刻	５．発行年 2023年
３．雑誌名 研究紀要　（長野県国語国文学会）	６．最初と最後の頁 16-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 二本松康宏	4．巻 70
2．論文標題 「諏訪縁起」の情景―新海道をたどる―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 伝承文学研究	6．最初と最後の頁 65-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 永松敦	4．巻 309
2．論文標題 民俗学における多文化共生―東アジアの十五夜行事から考える―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本民俗学	6．最初と最後の頁 113-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 永松敦・潘艶賢・佐野愛子・李信恵・宮崎公立大学民俗学演習	4．巻 29
2．論文標題 ［研究ノート］第2回 日中韓十五夜シンポジウム	5．発行年 2022年
3．雑誌名 宮崎公立大学人文学部紀要	6．最初と最後の頁 221-256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中澤克昭	4．巻 66
2．論文標題 「城とは何か」論の現状と課題	5．発行年 2021年
3．雑誌名 上智史學	6．最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 二本松康宏	4．巻 69
2．論文標題 「諏訪縁起」の風景―蓼科山と雨境峠から―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 伝承文学研究	6．最初と最後の頁 46-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 二本松泰子	4．巻 69
2．論文標題 大祝家の氏祖伝承―諏訪市博物館所蔵大祝家文書の系図をめぐって―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 伝承文学研究	6．最初と最後の頁 32-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 二本松泰子	4．巻 72-12
2．論文標題 諏訪上社の縁起伝承―諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢島家文書『信州諏方大明神縁起』を端緒として―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 信濃（第三次）	6．最初と最後の頁 73-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 二本松泰子	4．巻 4
2．論文標題 【資料・研究ノート】諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢島家文書『諏方大明神畫詞』全二冊全文翻刻	5．発行年 2021年
3．雑誌名 グローバルマネジメント	6．最初と最後の頁 50-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32288/00001343	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中澤克昭	4．巻 908
2．論文標題 楽しまれた殺生―中世の狩猟とその禁止―	5．発行年 2024年
3．雑誌名 日本歴史	6．最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 二本松泰子	4．巻 72
2．論文標題 中近世における武芸（流鏑馬・牛追物）の故実伝承と諏訪信仰	5．発行年 2023年
3．雑誌名 伝承文学研究	6．最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 二本松泰子	4．巻 75-10
2．論文標題 中近世の鷹書に見える諏訪の偈について	5．発行年 2023年
3．雑誌名 信濃（第三次）	6．最初と最後の頁 843-860
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計13件（うち招待講演　6件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 二本松康宏
2．発表標題 諏訪信仰の中世神話
3．学会等名 八ヶ岳jomon楽会　2022年度第2回諏訪学講座（招待講演）
4．発表年 2022年

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 中先代の乱と諏訪信仰について
３．学会等名 長野県立歴史館　令和4年度秋季企画展講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 中澤克昭
２．発表標題 中世の狩猟文化と「野生の価値」
３．学会等名 親鸞と中世被差別民に関する研究会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 中澤克昭
２．発表標題 室町・戦国期の鹿食と諏訪信仰
３．学会等名 中世諏訪信仰研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 二本松泰子
２．発表標題 諏訪信仰と鷹書―守矢家文書の言説を手掛かりにして―
３．学会等名 中世諏訪信仰研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 永松敦
２．発表標題 諏訪信仰と茅―なぜ、諏訪ではススキが多用されるのか？！―
３．学会等名 中世諏訪信仰研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 中澤克昭
２．発表標題 中近世移行期における所謂「呪術からの脱却」をめぐって
３．学会等名 中世諏訪信仰研究会　2021年度 第2回 研究例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 二本松泰子
２．発表標題 諏訪上社をめぐる縁起伝承の展開―矢島家文書における氏族伝承および物忌令の写しを端緒として―
３．学会等名 中世諏訪信仰研究会　2021年度 第3回 研究例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 永松敦
２．発表標題 諏訪の狩猟信仰研究の課題
３．学会等名 中世諏訪信仰研究会　2021年度 第4回 研究例会
４．発表年 2022年

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 諏訪縁起の変容―陬波大王から甲賀三郎へ―
３．学会等名 第12回すわ大昔フォーラム（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 甲賀三郎物語の展開―望月、甲賀、そして薩摩へ
３．学会等名 令和2年度佐久市望月歴史民俗資料館講座（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 永松敦
２．発表標題 諏訪信仰と茅をめぐる諸問題
３．学会等名 日本民俗学会 第72回年会（オンライン開催）
４．発表年 2020年

１．発表者名 二本松泰子
２．発表標題 諏訪藩の鷹狩り
３．学会等名 公益財団法人八十二文化財団「教養講座」（招待講演）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計2件

1．著者名 二本松康宏	4．発行年 2024年
2．出版社 三弥井書店	5．総ページ数 268
3．書名 諏訪信仰の変奏―中先代の乱から甲賀三郎神話へ―	

1．著者名 中澤 克昭	4．発行年 2022年
2．出版社 名古屋大学出版会	5．総ページ数 484
3．書名 狩猟と権力―日本中世における野生の価値―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

中世末期から近世前期における諏訪信仰の総合的研究
https://suwadaimyoujin.fc2.net/

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	永松　敦 (Naganatsu Atsushi) (30382451)	宮崎公立大学・人文学部・教授 (27601)	2024年3月をもって定年退職

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	二本松　泰子 (Nihonmatsu Yasuko) (30449532)	長野県立大学・グローバルマネジメント学部・教授 (23603)	
研究分担者	中澤　克昭 (Nakagawa Katsuaki) (70332020)	上智大学・文学部・教授 (32621)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関